

新聞記事に見る徳島大学の地域連携事業

事業名	連携先自治体等	大学担当部局	実施期間・備考
阿南地域の竹林管理手法検討会	徳島県南部総合県民局、JA阿南、阿南市 (南から届ける環づくり会議)	大学院ソシオテクノサイエンス研究部エコシステムデザイン部門 (工学部建設工学科、環境防災研究センター)	平成20.6～
放射線に関する啓蒙事業		アイトーブ総合センター	平成19～
長期インターンシップ事業	徳島県立博物館、ニタコンサルタント、 などの機関、企業等	長期インターンシップ委員会(先端技術科学教育部)	平成18.10～
南から届ける環づくり会議	徳島県南部総合県民局、南から届ける 環づくり会議	環境防災研究センター	平成18.7～
産学連携人材育成講座	徳島県立工業技術センター、徳島県東部 保健福祉局徳島保健所、四国化工機株式 会社、西精工株式会社、大阪市立大学、首都 大学東京、高崎経済大学、甲南大学、広島 国際大学、追手門学院大学、流通科学大学、 株式会社山本鉄工所、徳島製粉株式会社	産学官連携推進部イノベーション人材育成部門	平成17～
徳島ビジネスチャレンジメッセ インターンシップ事業	(社)徳島ニュービジネス協議会 徳島市役所ほかの官公庁、 徳島新聞社ほかの企業等	産学官連携推進部 インターンシップ実施検討会議、就職支援センター連絡会議、 学務部学生生活支援課	平成15～ 平成12.6～

# 急傾斜地農法 長所探ろう

## 畑の土にススキ混ぜて土壌管理

### 徳大生、つるぎで調査

#### 条件別に土採取、分析へ



グリーンツーリズムを学ぶ徳島大の学生らが、つるぎ町一宇瑠字の畑を訪れ、急傾斜地でジャガイモなどを育てる独自農法の調査を始めた。つるぎ町などは、急傾斜地農法の「世界農業遺産」登録を目指しており、同農法の特徴である土壌管理などについて調べる。

訪れたのは総合科学部の内藤直樹准教授(牛鹿)の後援で、3年生11人も、土の採取やジャガイモの収穫に訪れる。来月3月末までに分析結果を住民らに発表し、世界農業遺産登録に向けて弾みをつけた。考えた。(吉松美和子)

カヤの有無など、数種類の土を採取する学生たち。つるぎ町一宇瑠字。

訓も果たしていると考え、カヤの有無など条件を変えて土を採取した。採取した土は大学に持ち帰り、水の保水力や土壌に含まれる栄養分を分析する。2年の泉原奈征さん(19)は「昔の人が考えた農法には多くの知恵が詰まっている」と話した。

この畑は今年3月から、町や内藤准教授がカヤの効果を実証実験に取り組んでいる。今後は1回程度学生と人間学と、3年生11人も、土の採取やジャガイモの収穫に訪れる。来月3月末までに分析結果を住民らに発表し、世界農業遺産登録に向けて弾みをつけた。考えた。(吉松美和子)

平成26年7月17日【徳島新聞】

# 徳大生 上勝のまちづくり学ぶ



上勝町のまちづくりについて学んだ講演会。徳島市の徳島大常三島キャンパス。

葉っぱビジネスやごみゼロ宣言みせロ宣言などユニークなまちづくりに取り組む上勝町について学ぶ講演会が7日、徳島市の徳島大常三島キャンパスであり、学生ら約30人が耳を傾けた。町の第三セクター・いんどうりの社員谷健太さん(28)が、葉っぱビジネス誕生の苦労や元

気に働く農家を紹介し、「葉っぱ、高齢者、地形と、上勝の地域資源を生かしたビジネス」と説明した。NPO法人セロ・ウエイストアカデミーの藤井園(苗事務局長(33))はごみ減量に向けた取り組み、桑原定夫町参事(59)は起業家育成事業などについて話し、来場者は興味深そうに聞いていた。講演会は、地域活性化に貢献できる人材の育成を目的とした徳島大総合科学部の授業の一環。25日から5日間、学生約30人が上勝町を訪れ、まちづくりの手法を学ぶ。(矢田論史)

平成26年8月6日【徳島新聞】

# 平成26年度 徳島地域連携協議会 —徳島大学と県内全自治体等との連携協定締結記念講演会—

主催：徳島大学 共催：徳島県/徳島県市長会/徳島県町村会

## 高らかに宣言！ 「地域と共に未来へ」

平成26年度徳島地域連携協議会「徳島大学と県内全自治体等との連携協定締結記念講演会」上巻 徳島大学、共催 徳島県、徳島県市長会、徳島県町村会が8月29日、徳島市で開かれました。

協議会では、徳島大学が地域住民や地元企業、行政等と連携を図りながら地域貢献に取り組む「地域と共に未来へ」という徳島大学宣言が行われたほか、各自治体による定例講演が開かれ、その模様を紹介します。

### 神山プロジェクト —未来の働き方・暮らし方を創造する—



徳島大学 神山プロジェクト 実行委員長 西川 直樹氏

1953年徳島県立徳島大学に、主として「ワーキング・スタディー」を推進し、1970年代後半から徳島県内各地で社会貢献活動を通じて「社会と共生」のまちづくり、2001年に創立50周年を記念して「徳島県立大学」を創設し、2004年6月9日「徳島県立大学」を正式に開学。2014年9月14日、70周年記念式典を開催し、内閣府から表彰状が授けられた。



徳島大学 香川 征氏



徳島県 飯泉 嘉門氏

**地域と共に未来へ歩む徳島大学宣言**

徳島大学は、徳島の地で、且上・有徳の精神に基づき、直耶の徳性・物の創造に努め、卓越した学術及び文化を継承し、地域社会や地元企業、行政等と連携しながら、徳島県に不可欠な総合大学として地域課題と直耶に向き合い、地域の未来を心懸けで持続可能な社会を築くことを最優先課題とし、次の基本方針に基づき全力で取り組み、地域と共に未来へ歩むことを宣言する。

基本方針

1. 地域課題の解決に貢献する人材育成に取り組む
2. 地域産業のイノベーションに貢献する研究開発に取り組む
3. 地域創生・発展の充実に取り組む
4. 地域の「ソフト」面に取り組む
5. 地域文化の継承と発展に取り組む

平成26年8月29日

徳島大学 香川 征

### 地域活性化に貢献する6次産業化



徳島大学 6次産業化推進センター 実行委員長 大内 秀彦氏

1999年に設立された、産学連携の推進機関。1984年農林水産省から、産学連携推進機関として指定され、産学連携推進センターとして活動。2014年9月14日、70周年記念式典を開催し、内閣府から表彰状が授けられた。

徳島大学地域連携体制(お問合せ先) 徳島大学では以下の地域連携センターに窓口を設け、地域の皆様方からのご依頼をお受けしております。

<p><b>地域づくり</b> 産学連携の推進・活性化への取り組みを支援すること。</p> <p>徳島大学地域連携センター 〒770-8501 徳島市東町2丁目1番1号(徳島大学内) TEL:087-831-2111 FAX:087-831-2112 E-MAIL:info@u-tokushima.ac.jp URL:http://www.u-tokushima.ac.jp/</p>	<p><b>地域医療・福祉</b> 地域医療・福祉向上を図ること。</p> <p>徳島大学地域医療福祉センター 〒770-8501 徳島市東町2丁目1番1号(徳島大学内) TEL:087-831-2111 FAX:087-831-2112 E-MAIL:info@u-tokushima.ac.jp URL:http://www.u-tokushima.ac.jp/</p>	<p><b>環境・防災</b> 環境保全・防災対策に資すること。</p> <p>徳島大学環境防災研究センター 〒770-8501 徳島市東町2丁目1番1号(徳島大学内) TEL:087-831-2111 FAX:087-831-2112 E-MAIL:info@u-tokushima.ac.jp URL:http://www.u-tokushima.ac.jp/</p>	<p><b>生涯教育</b> 生涯学習・生涯教育に資すること。</p> <p>徳島大学生涯教育推進センター 〒770-8501 徳島市東町2丁目1番1号(徳島大学内) TEL:087-831-2111 FAX:087-831-2112 E-MAIL:info@u-tokushima.ac.jp URL:http://www.u-tokushima.ac.jp/</p>	<p><b>地域の6次産業化</b> 6次産業化・産学連携の推進を図ること。</p> <p>徳島大学6次産業化推進センター 〒770-8501 徳島市東町2丁目1番1号(徳島大学内) TEL:087-831-2111 FAX:087-831-2112 E-MAIL:info@u-tokushima.ac.jp URL:http://www.u-tokushima.ac.jp/</p>
---	---	--	---	---

## 児童ら実験楽しむ

### 小松島・勝浦で科学教室

小松島市松島町の市立科学の楽しさを学べる科学教室が、中央会館と勝浦町久田の町図書館で5日、小松島市中央会館の学生らが実験などを通じて子ども科学あそび教室



【上】上皿でんびんで重さを量る子どもたち。小松島市中央会館【下】炎の色を確かめる実験を楽しむ児童。勝浦町図書館

は、小学生ら80人が参加で、プラスチック板や加。元小学校教員三木ひとことといった身近な道具を使い、竹とんぼなヤケ木の手ほどきどのおもちゃ作りに取り組みました。

上皿でんびんでクエン酸と重曹、砂糖の重さを量って混合し、ラ

ムネ風味の粉に仕上げた味だった。芝田幼稚園の森英都ちゃん(5)は「竹とんぼがすごく高く飛んだ。また作りたい」と喜んでいました。

勝浦町図書館の夏休み科学実験教室では、町内の小学生28人が炎色反応を調べる実験に取り組みました。

徳島大学大学院総合技術センターの技術職員8人が、リチウムやホウ酸など5種類の金属試験管に着火し、試験管

とに炎の色が異なることを説明した。

気に入った試験管とエタノールを混合させて火を付ける実験もあり、児童は鮮やかな炎の色を確かめた。生比奈小3年の山本さくらさん(8)と大高羽叶さん(9)は「花火の色が謎が解けた。実験もすごく楽しかった」と話した。

(城福章裕(大塚康代))

# 徳大と地方創生で連携

## 人材育成や資源活用図る

徳島新聞社は15日、推進に向けた連携協定を徳島大学と地域貢献の徳島大と地



連携協定を締結し、握手を交わす香川学長と徳島社長。徳島市新蔵町の徳島大本部

的・物的資源やノウハウを有効に活用し、地域活性化に関する人材育成や事業化支援などに取り組む。上勝や神山など、まちづくりの全国的な先進事例がある徳島県の地域力をより高めるのが目的。地域活性化をテーマにした講演会やワークショップなど、学びの場を共同企画するほか、人口減少時代における地方の在り方に関する情報発信に取り組む。具体的には2015年度に地域創生をテーマで検討を進めていく。徳島市新蔵町2の徳島大学本部で開かれた調印式には香川征学長、植田和俊社長らが出席。締結後、香川学長は「大学が持つ人的、物的、知的資源になど、地域の明るい未来を予感させる話題も少なくない。協定により、活性化に取り組む素晴らしい成果を上げたい」とそれぞれ抱負を語った。(門田誠)

徳島新聞社 国立大学法人 徳島大学  
連携協力に関する協定締結式

奥木頭の暮らしを写した135枚並ぶ写真展  
徳島市で写真展  
大正から現在までの那賀町奥木頭地区の写真を集めた展示会「奥木頭・風上に育まれて今」(奥木頭とつくり協議会主催)が10日、徳島市新蔵町の徳島大ギャラリー新蔵で始まった。24日まで。



大正から現代にわたる奥木頭の人々の暮らしを捉えた写真が並ぶ展示会。徳島市新蔵町の徳島大ギャラリー新蔵

奥木頭と呼ばれる折字と北川の西地区の山仕事や農作業、祭りの風景など135枚を展示。那賀川に架かるかずら橋を写した大正初期の一枚のほか、多くの住民にぎわう神社の祭りや、木馬で材木を運び出す様子を切り取った昭和中期のモノクロ写真がずらりと並んでいる。最近の写真は、都会から地元の北川小学校に山村留学した児童が自然の中で生き生きとした表情で遊ぶ姿を捉えており、来場者は熱心に見入っていた。

小松島市坂野町の介護士吉見千代さん(38)は「自然に恵まれた奥木頭で育まれた文化がよく分かる」と話した。11日午前10時から山村留学の説明会も開かれる。(橋本真味)

平成26年11月11日 [徳島新聞]



野菜を使ったタルトを開発した経緯を発表する小松島西高の生徒。徳島大常三島キャンパス

## 地域の課題解決兼ねた商品開発 2 高校、取り組み発表

若者による近未来の商品開発をテーマにした地域交流シンポジウムが、徳島市の徳島大常三島キャンパスであり、つるぎと小松島西の両高校の生徒各5人が、地域の課題解決を兼ねた商品開発の取り組みを紹介した。学生ら約180人前に、つるぎ高の生徒は美馬市特産の菜味だ。

徳大でシンポジウム「みまから」の生徒拡大に向け、自然エネルギーを活用しながら、耕作放棄地でトウガラシを栽培する仕組みを作り、つるぎと小松島西の両高校の生徒は、県民の野菜摂取量を増やすことを目的に、製菓業者と連携して製造した野菜たっぷりのタルトの試作品を披露した。

平成26年11月15日 [徳島新聞]

平成26年12月16日 [徳島新聞]

